

第1号議案

道路改築事業

あがつまにし ひがしあがつま まつや あつだ
 国道145号 吾妻西バイパス 東吾妻町松谷～厚田

着工年度

平成21年度

評価理由

国の規程

1. 事業の目的

国道145号吾妻西バイパスは、「上信自動車道」の一部として、吾妻地域から関越自動車道等とのアクセス向上により、観光誘客や物流の効率化による地域経済活性化や県央地域の中核的医療施設への搬送時間の短縮等を図るために事業実施するものである。

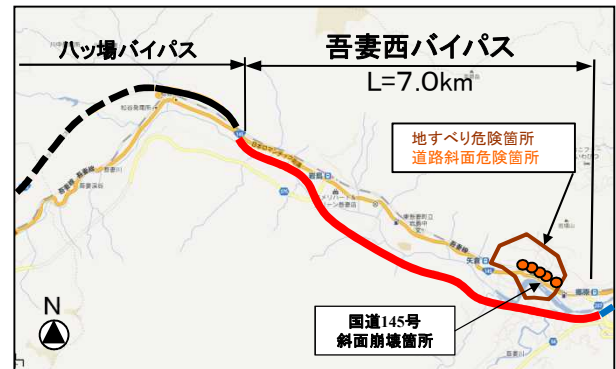
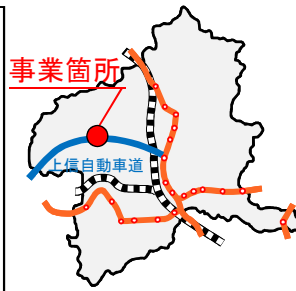
また、ハツ場ダム地域の生活再建にとっても欠かせない道路となっている。

【上信自動車道全体の効果】

- ①県央地域の中核的医療施設への搬送時間の短縮
 - ・吾妻地域から群馬県の総合周産期母子医療施設への1時間圏域人口が約9千人増加
 【約24千人 ⇒ 約33千人】
- ②関越自動車道へのアクセス向上
 - ・関越自動車道 渋川伊香保ICから草津温泉へのアクセス時間が約30分短縮【約90分 ⇒ 約60分】
- ③ハツ場ダム地域の生活再建を支援

【上信自動車道 吾妻西バイパスの効果】

- ①国道145号の通行の安全の確保
 - ・道路斜面危険箇所5箇所及び地すべり危険箇所1箇所を回避



2. 事業概要と進捗状況

事業概要

事業場所	ひがしあがつま まつや あつだ 東吾妻町松谷～厚田	
	前回再評価時(H28)	今回再評価時
区	分	
全体事業費	12,400百万円	15,400百万円
全体事業費増減の理由		<ul style="list-style-type: none"> ・地質調査結果に伴う橋梁構造見直しによる増加 ・埋蔵文化財調査の追加に伴う増加 ・軟弱地盤対策の追加に伴う増加
事業期間	H21～H33	H21～H33
事業内容	道路延長 7,000m 幅員 10.5m	道路延長 7,000m 幅員 10.5m

事業経緯

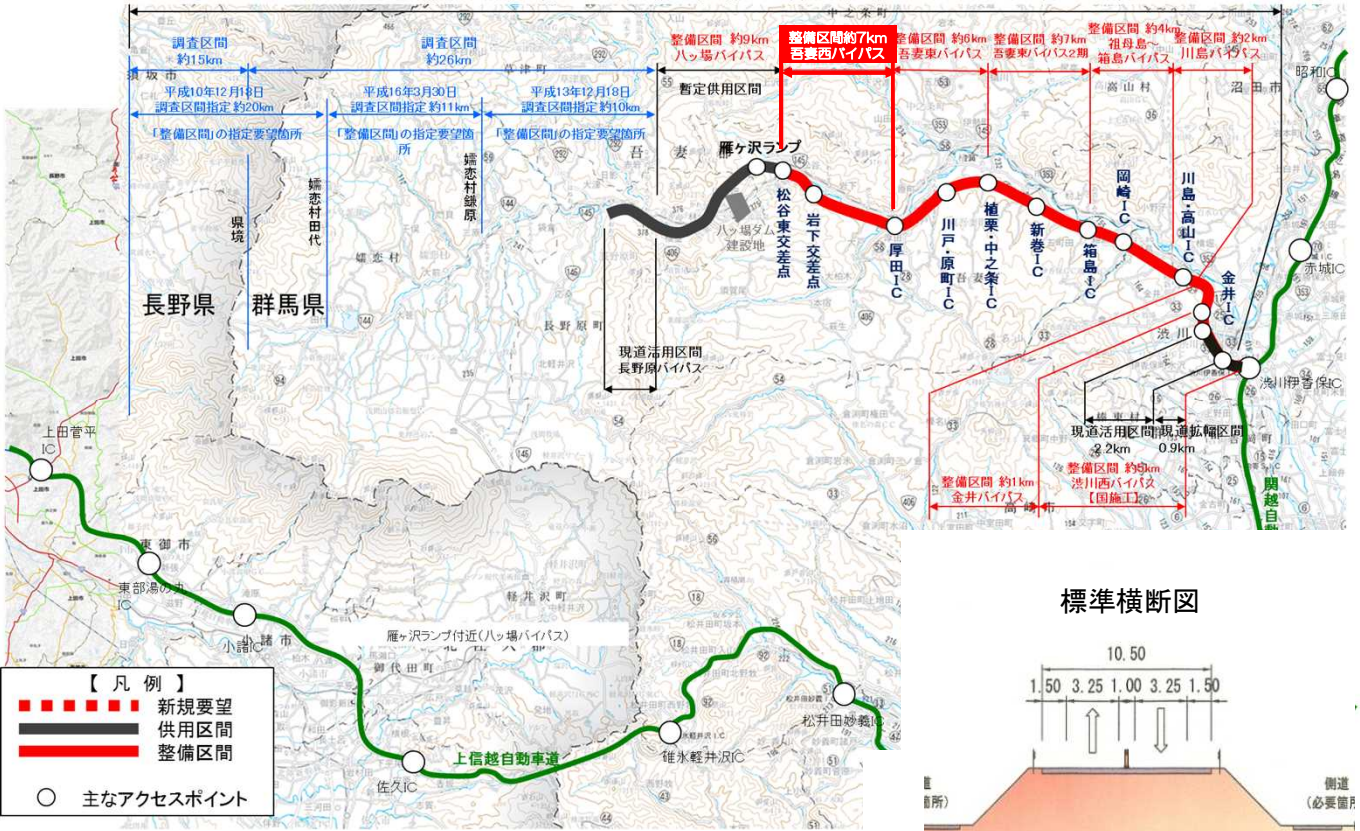
進捗状況

年度	主な経緯	全体計画	前回評価時の進捗状況(進捗率)	現在の進捗状況(進捗率)	
H21	事業着手				
H24	用地買収着手				
H25	工事着手				
		事業費	15,400百万円	5,754百万円 (37.4%)	7,937百万円 (51.5%)
		用地買収	209,919㎡	171,473㎡ (81.7%)	187,668㎡ (89.4%)
		計画延長	7,000m	0m (0.0%)	0m (0.0%)

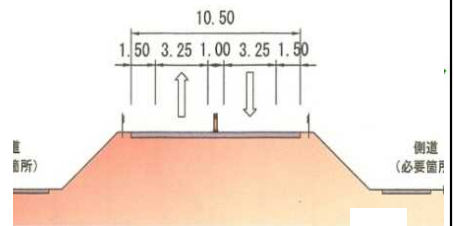
2. 事業概要と進捗状況(図面・写真等)

地域高規格道路「上信自動車道」

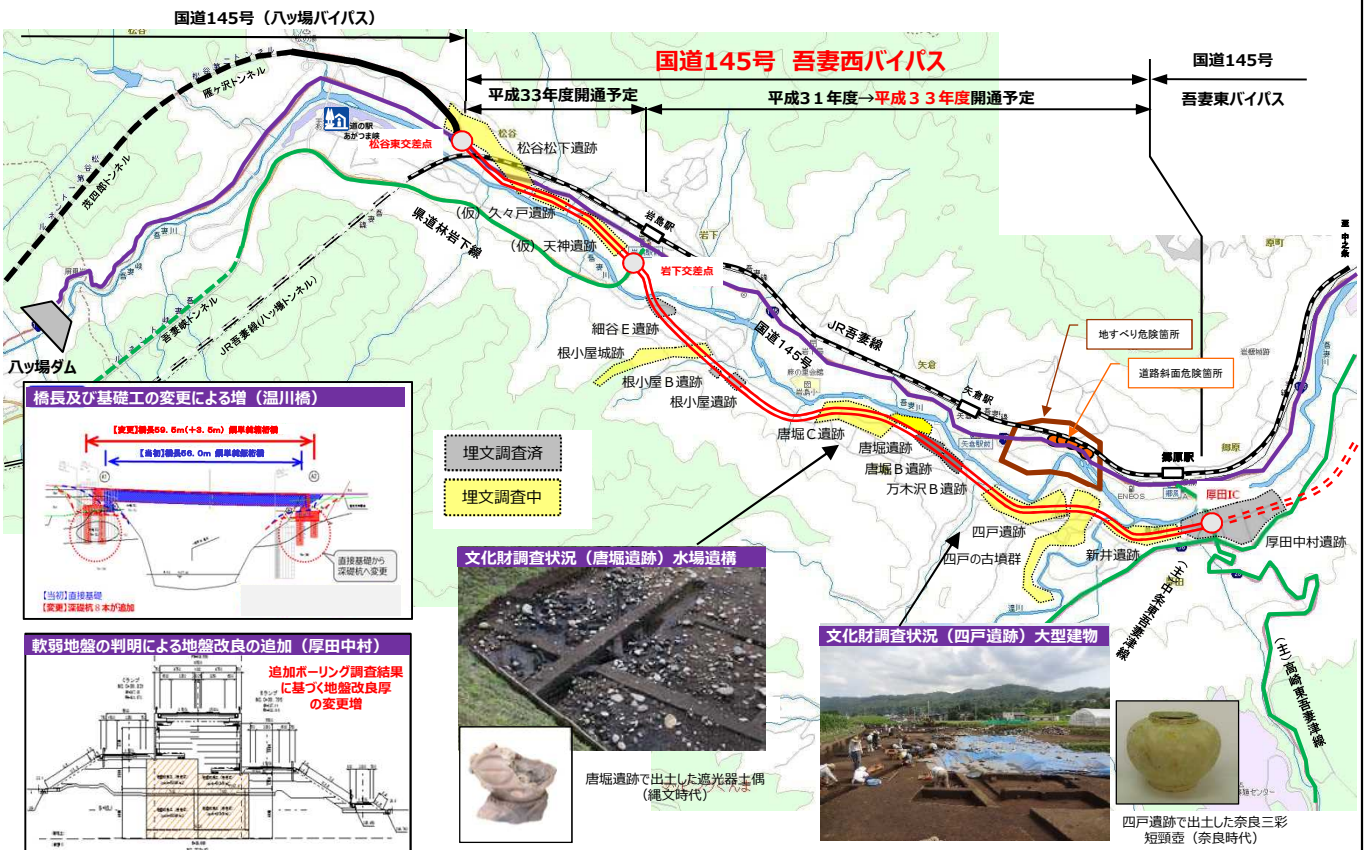
上信自動車道 全体計画延長 約80km (うち群馬県 約65km、長野県 約15km) 平成6年12月16日指定



標準横断面図

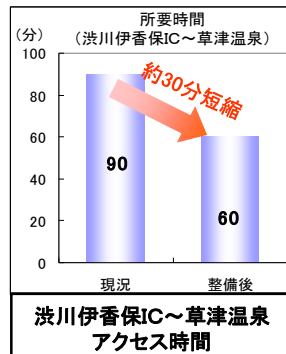
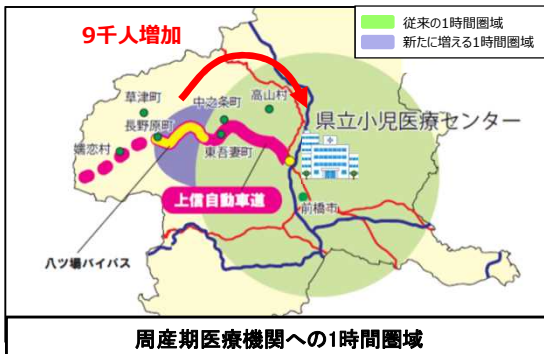


吾妻西バイパス概要



3. 事業の目的・必要性に変化はあるのか？

- ①吾妻地域と県央地域間の移動時間は改善されておらず、地域高規格道路の整備により、物流・観光等の地域間交流の活性化や、県央地域の中核的医療施設への患者搬送時間の短縮が望まれており、事業の目的・必要性に変化はない。
- ②国道145号(東吾妻町矢倉～郷原付近)は、道路斜面危険箇所5箇所及び地すべり危険箇所1箇所が存在しており、第1次緊急輸送道路でありながら、吾妻川沿いに県道以上の複数路線が確保されておらず、この代替機能を確保する必要性は依然として高い。



4. 目的を達成するための事業(手段)は適当か？

- ①本バイパスは上信自動車道の一部として整備しており、高速道路網が未整備である吾妻地域のアクセス向上には欠かせない道路であり、一連区間で整備することにより、吾妻地域の活性化に大きな効果が期待できる。
- ②本バイパス事業に並行する国道145号の沿線には災害危険箇所があり、たびたび土砂流出等により通行止が発生していることから、災害緊急時における代替機能を確保できるバイパス整備が有効である。
- ③このため、目的を達成するための手段として適当であると考える。

【事業費の増加要因】

- ①地質調査結果を踏まえた詳細検討の結果、橋梁の橋長及び基礎工の変更による増加
- ②唐堀遺跡において貴重な遺物・遺構が多数出土・確認され、詳細調査の追加とこれに伴う資料整理の増加
- ③地質調査結果を踏まえた詳細検討の結果、軟弱地盤層が深く地盤改良範囲が拡大したことによる増加

費用便益分析

単位:千円

		前回再評価時(H28)		今回再評価時		備考	便益説明
算出根拠マニュアル		費用便益分析マニュアル 国土交通省 道路局、都市・地域整備局 平成20年11月		費用便益分析マニュアル 国土交通省 道路局、都市・地域整備局 平成30年2月			
基準年		平成28年		平成30年			
区分	項目	現在価値	構成比	現在価値	構成比		
費用 (千円)	工事費	11,645,000	94.8%	15,239,000	94.7%		事業費増加による
	維持管理費	637,000	5.2%	845,000	5.3%		
費用合計(C)		12,282,000		16,085,000			
便益 (千円)	走行時間短縮便	12,571,000	78.7%	16,414,000	84.4%		マニュアルの更新、 現在価値の増加による
	交通事故減少便	969,000	6.1%	919,000	4.7%		
	走行経費減少便	2,425,000	15.2%	2,117,000	10.9%		
便益合計(B)		15,965,000		19,450,000			
費用対効果分析(B/C)		1.30		1.20			

5. 事業が長期間要している理由は？

【元々が長期計画 不測の事態により長期化】

【元々が長期計画の理由】

インターチェンジごとに開通目標を設定して計画的に事業を推進しているが、事業延長L=7.0km、全体事業費124億円(変更前)と事業規模が大きく、地元調整、用地取得、埋蔵文化財調査及び工事完成までに長期間を要する計画となっている。

【不測の事態により長期化した理由】

唐堀遺跡において、縄文時代の「遮光器土偶(約3千年前)」「水場遺構」が発見され、またそのほかの遺跡においても貴重な遺物・遺構が多数出土・確認されたことから、調査期間が延伸した。それに伴い工事着手が遅れ、岩下交差点から厚田IC間の開通時期を2年間遅延し吾妻西バイパス全体が平成33年度となる見込みである。

6. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし ・ 事業計画の変更 ・ スケジュールの変更

国道145号吾妻西バイパスは、「上信自動車道」の一部として、吾妻地域から関越自動車道等とのアクセス向上により、観光誘客や物流の効率化による地域経済活性化や、県央地域の中核的医療施設への搬送時間の短縮等を図るために事業実施するものである。

また、ハツ場ダムの生活再建にとっても欠かせない道路となっている。

国道145号は、道路斜面危険箇所5箇所及び地すべり危険箇所1箇所が存在しており、第1次緊急輸送道路でありながら、吾妻川沿いに県道以上の複数路線が確保されておらず、この代替機能を確保する必要性は高く、吾妻地域の地域経済の活性化に資する上信自動車道の整備が急務である状況に変化はない。

事業実施にあたり、地元市町長村や地域住民との合意形成に努めた結果、道路計画についての同意が得られたことから、平成24年度に用地買収に着手し、平成25年度から工事着手した。

地質調査結果に伴う橋梁構造見直し、埋蔵文化財調査の追加、軟弱地盤対策の追加等の不測の事態による事業費の増加が見込まれるが、事業着手以降から切土・盛土の土工バランスを考慮した道路計画の策定や本線と町道交差点等の現場打ちボックスカルバートの採用によるコスト縮減等、最大限の取り組みを実施しているところである。

また、貴重な遺物・遺構が多数出土・確認されたことから埋蔵文化財調査期間の延伸が見込まれるが、整備推進にあたっては、埋蔵文化財調査による遅れが最小限になるように工程を見直し、工事期間の短縮を図っている。

以上から本事業の必要性、重要性は高く、事業を継続実施し、早期に効果発現を図ることが適切であると考える。